

松崎町ってどんなまち？

松崎町は、「日本で最も美しい村」連合に加盟していて、まわりを海や山、田園に囲まれた落ち着いた風情あるまちなみを有しているまちです。町内には、漆喰と瓦を用いた「なまこ壁」の建物が約190棟存在しています。

なまこ壁とは？

「なまこ壁」は、平瓦を壁に貼り付け、瓦と瓦の間である目地を漆喰で盛り上げるスタイルで、海の生き物「なまこ」のように見えることからその名前がつけました。防火性、保温性、保湿性に優れています。建物の壁を塗る職人を左官と呼びますが、松崎町は、幕末から明治にかけて活躍した左官の名工「入江長八」のふるさとでした。

入江長八ってどんなひと？

長八は、文化十二年(1815)伊豆国松崎村(現在の松崎町)に生まれました。幼くして左官の弟子となり、十代で江戸に出たのちに、狩野派の絵を学びながら彫塑技術を習得した彼は、「漆喰こて絵」と呼ばれる新しい分野の技術を確立しました。こて絵自体は江戸中期から徐々に盛んになっていたようですが、それまで左官職人の一技術に過ぎなかった漆喰装飾を芸術の域にまで高めたことで、入江長八の名は、広く江戸に知れわたることになりました。

長八作品は、松崎町にある「伊豆の長八美術館」の展示をはじめ、長八が活躍した各地に所蔵されています。



松崎町access



●車でのアクセス

東名沼津I.C.
新東名長泉沼津I.C. 東駿河湾環状道路・伊豆中央道・国道136号線 経由 (約95分)

●電車・バスでのアクセス

東京駅	新幹線 (約55分)	三島駅	伊豆箱根鉄道 (約32分)	修善寺駅	バス (約100分)
名古屋駅	新幹線 (約105分)				

●フェリーを活用したアクセス

清水港 駿河湾フェリー (約65分) 土肥港 バス (約50分)

岩科access

●バスでのアクセス

バス停 松崎 バス (約9分) バス停 重文岩科学校



このMAPは地区住人とつくりました。

なまこ壁、お地蔵さん、段々畑にいなむらぼっち。
桜葉香る癒しの農村風景が広がる岩科へおでかけしよう！
岩科満喫マップ
青々とした田んぼが広がり、家の軒先で干し柿がつくられ、
野良仕事に精を出す人々、収穫を今か今かと待つ桜葉畑。
田舎のいかな風景が広がる岩科を歩いてみませんか？

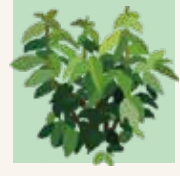


岩科ってどんなところ？

日本一の桜葉生産地！

よく桜餅に使われている桜葉の塩漬はどこの桜葉を使っているか知っていますか？

実はここ松崎町は桜葉の名産地なんです。明治末期、南伊豆の子浦地区で桜葉漬けが始まり、昭和34～35年頃より自生のオオシマザクラを使った薪炭生産が盛んな松崎に中心が移りました。戦後、火災燃料革命により炭が石油に変わると、自生の桜葉の収穫が困難となり、松崎町ではオオシマザクラの火田地栽培を始めました。現在も、多くの農家がオオシマザクラを栽培し、松崎町は全国シェアの系7割の生産量を誇り、桜葉生産が日本一となっています。



周シ刈家・石田半兵衛一方矢の周シ刈が残っています。

幕末の周シ刈家・石田半兵衛一族は、松崎町の神社仏閣に多くの作品を残しています。津島神社には、先代（半兵衛の父）による此獅子が所蔵されています。石田半兵衛（邦秀）の代表作の一つ「唐獅子」が浄感寺（松崎町松崎234-1）の本堂にあり、岩科では茂山神社、諏訪神社に周シ刈が残っています。石田半兵衛（邦秀）は、松崎町江奈の生まれで、幕末の堂宮周シ刈の名工として知られています。



岩科学校

重要文化財岩科学校は、なまこ壁をいかした社寺風建築様式とバルコニーなど洋風を取り入れた伊豆地区最古の小学校です。明治12年4月に着工、翌13年9月に完成を見た洋風デザインの印象的な建物で、日本では甲府の旧睦沢学校（明治8年）、松本の旧開智学校（明治9年）などに次ぐ古いものとして知られています。平成4年11月に2年間の改修工事を終了し、明治13年の形に復元されました。また、長野県松本市にある国宝「旧開智学校」と平成17年に姉妹館提携しています。階上客室の西の間は日本間で、作法や裁縫の授業にも利用されていました。床の間はのぼり太陽を表現して糸の壁、脇床には糸を巻いて松を表現しています。欄間には名工入江長八によって模造された千羽鶴が、一羽一羽の羽を変えて描かれており、まるで壁面より飛び出してくるかのよう。日の出を目指して飛翔する姿が見られます。この千羽鶴は左官技法と色紙技法を巧みに融合させた長八作品の傑作です。



たかの人 八木山集落と高野山

岩科川の上流にある八木山という集落は、かつて山を焼いて開拓したために、「焼山」と呼ばれていました。その集落から山間へ3kmほど入ると、溪流に面して奇岩の糸壁がそそり立ち、知られざる静寂の境があります。ここが高野山で、その昔、真言密教の修験者の行場だったところ。たくさんの石仏がたたずんでいます。

高野山のイ云説

かつて、弘法大師もここに訪れましたが、近くの農地から肥料の臭いが漂ってきて不浄なこと、谷の深さが物足りないことを理由に立ち去り、紀伊州（和歌山県）へ行って高野山を開いたというイ云説が残されています。その言い云えを裏づけるように、糸壁の中腹の行場「閻魔真行」には、弘法大師像まつてありました。現在は八木山の永禅寺に移し安置されています。

幕末のころ、諦然という僧が「閻魔真行」で修行し、近在を祈禱して歩いたところ、霊験のあらたかなことが評判となり、お大師さまと呼ばれて敬われるようになりました。諦然がこの地を立ち去るときに、経典や法衣などを地元の田口家に残していきました。

また一説によると、建久年間（1190～1199）に文覚上人がここで参籠し、修行を終えて立ち去ろうとしたところ、上人の衣に野バラがからみついて離れられなくなったため、上人は再び岩窟の中に籠って修行を続けたといわれます。それ以来、地元の人々は野バラのことを「文覚バラ」と呼んでいるそうです。



なまこ壁、お地藏さん、段々畑にいなむらぼっち。
桜葉香る癒しの農村風景が広がる岩科へおでかけしよう！

岩科満喫マップ

青々とした田んぼが広がり、家の軒先で干し柿がつかうられ、
野良仕事に精を出す人々、収穫を今が今かと待つ桜葉畑。
田舎のどこかな風景が広がる岩科を歩いてみませんか？

おすすめコース（2km・約30分）



伏倉方面へ

ごらう
御来迎岩

昔から、西方の浄土に向かいお祈りをする
と、極楽浄土へ迎えられると言われ、里の
人々はこの夕日を眺め感動し、春秋
彼岸の中日には、馬交河湾を真っ赤に染める
夕日に向かいお祈りを捧げました。そしていつし
か「御来迎岩」と呼ばれ、今に伝えられて
います。

諏訪神社
眺めがよい！

天神社
眺めがよい！



ロマンが漂う重要文化財岩科学校
明治13年に建てられた伊豆地区最古の
学校。バルコニー、なまこ壁、土蔵づくりなど
和洋が調和した校舎です。入江長八
による「千羽鶴」が描かれた鶴の目印があり
ます。

岩科学校初代
校長山口磐山の
墓があります。

岩科学校 天然寺
トイレ

でんお地藏さん
ごらうの花畑

中野橋
重文岩科学校

大島桜原木

松尾橋
松尾神社

盆さんおくり
8月16日に河原で
石を積んで、線香・
米・果物を供えます。

松尾神社

県道121号から岩科川の方へ坂
道を下って行くと、昔ながらのまちなみ
と田、美しい川のせせらぎが調和した
景色が見られます。製紙場跡と
重火力用水路跡が残っています。

約12,000本の
ヤマツツジがキレイ！

↓長者ヶ原へ

●牛原山町民の森

金沢街道

熊野神社
眺めがよい

屋根までなまこ壁の家

でんお地藏さん

岩科学校・ツツジ・
長八が描かれた
風景E.P.があります。

さいの神づくり
音がドンドンはいけるから
どんど焼き

田の中のほう
1854年安政南
海地震のときに
流されてきたと言
われています。

岩科学校を建てた
棟梁の生家

常在寺
景色がよい！

カジカガエル。
鳴き声がキレイ！

●オの神橋

川底が自然の岩盤
むき出しになっている！



●プロヴァンス・
ド・すずき

左官職人である中村一夫さんが描り作した
芸術作品が所狭しと並んでいます。漆喰
とコテを使って描いた系をコテ系といいます。

芸術倉庫
中村左官

ここだけ
岩山になってる！

桜葉クッキーで有名。
ロールケーキもおいしい。

馬主在戸 橋本屋

山口松崎町

寸合の水

茂山神社
国柱命神社

小鷹神社

山口のなまこ壁

普音寺



松崎の第二のなまこ壁通り！古い建物
が立ち並んでいて、昔にタイムスリップしたか
のよう。



天正院

富屋商店

桑原
地蔵

永禅寺

永禅寺前

桑原の川原
四季を通じて美しい